

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒や保護者、地域等の期待に応えるべく本校の教育活動をさらに充実させ、令和5年9月の閉部まで桃谷高校の多部制単位制高校としてのミッション（使命）を果たす。

- 1 創立以来の本校の役割を大切に、閉部までに一人でも多くの生徒が単位修得へとつながるよう教育活動を充実させ、生徒・保護者・地域等の思いに応えるよう教育活動をすすめる。
- 2 自らの将来に展望を持ち、主体的に学ぶ力を身につけた生徒を育てるとともに、希望する進路を実現できる学校をめざす。
- 3 人権を大切に、自尊感情を向上させるとともに、社会性及び規範意識等を身に付けた生徒を育て、安全安心の学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 2年半後の閉部を見据え、生徒・保護者・地域等の思いに応えるべく教育活動の一層充実

- (1) 生徒一人ひとりの現状を正確に把握するため、生徒・保護者懇談や家庭訪問など家庭との連携を一層図る。
- (2) 家庭との連携を進めるため本校の教育活動などの広報活動の一層充実する。
- (3) 職員研修の充実により、常に人権意識と教育力の向上を図る。
- (4) 学校運営協議会や学校教育自己診断などを活用し、保護者・地域等と連携した教育活動を進める。
※ 保護者向け学校教育自己診断の「生徒指導や進路面で、学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」の肯定的回答率（平成30年度80%、令和元年度72.7%、令和2年度80.6%）を80%以上維持する。

2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」及び進路指導体制の充実

- (1) 希望進路の実現に向けた「学びのシステム」を充実させる。
ア 桃谷高校キャリア教育「もだにプロジェクト」を継続して実践する。
※ 進路未定率の減少（平成30年度23.3%、令和元年度8.7%、令和2年度21.5%）
- (2) 充実した学びなおしの学習環境の一層の充実。
ア 多様な学習履歴を持つ生徒の意欲を引き出すため、一人ひとりに合ったきめ細かな指導を行う。
イ 希望進路実現のための自学自習の場所提供や補習・講習の充実
- (3) 生徒の授業評価や授業見学週間を通して授業力を向上し、全教科で「わかる授業」の実現をめざす。
※研究授業・研究協議を実施して授業力の向上をめざす。
※生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の肯定的回答率（平成30年度70%、令和元年度77.5%、令和2年度81.3%）を80%以上維持する。

3 生徒の自尊心を育み社会性の向上を図る取組み及び人権教育の一層の充実

- (1) 「総合的な探究の時間」や特別活動等で人権教育を充実
ア 人権教育でワークショップなどの自分事に関連づける内容を研究する。
イ コミュニケーション能力を高めるため、自ら考え発信できる教材を開発する。
- (2) 中退防止PTを中心に、生徒の背景分析と生徒指導体制を充実する。
- (3) 教育相談体制を充実し、組織的な支援体制を一層すすめる。
ア SCやSSW等の外部機関との連携を通してカウンセリング体制を強化し、必要に応じたケース会議を持つ。
- (4) 生徒が達成感を実感できる自主活動（生徒会活動、部活動）を充実し、社会性を育成する。
ア 生活指導の徹底と自主活動や学校行事などの満足度を高める環境づくりを行う。
※生徒向けの学校教育自己診断の「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」の肯定的回答率（平成30年度61%、令和元年度72.2%、令和2年度61.6%）を70%以上維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分]										学校運営協議会からの意見	
結果・分析・課題等（数値は肯定的回答の割合(%)を示す)										<p>第1回 大阪府立桃谷高等学校 学校運営協議会（書面開催）令和3年7月16日（金）聴取日</p> <p>【協議内容】</p> <p>(1) 会長・副会長について→昨年度に引き続き、会長は梅田委員、副会長は大西委員に決定。 (2) 「令和3年度 各課程・各部の取組み」について (ご質問) (1)SSW、SCの2名増加について。(2)SCと保健室との連携について。(3)利用者の利用の形態について。 →①SSWは、校内予算（校長マネジメント経費）と本年度から府予算でさらに年9回分の配当が付き合計19回となった。SCについては、前年度と同様、府の配当年12回に加え、校内校長マネジメント経費で10回追加。合計22回。②ケース会議等で保健室、SC、SSW、教育相談係など組織的な対応。③個別面談など生徒と保護者とも実施。 (ご意見)・廃部を控えた中で、生徒会、部活動など自主活動の工夫と充実を図ってください。 ・一人でも多くの生徒が卒業できるよう、家庭との連携、「わかる授業」の実現は不可欠。 ・再編に向けた過渡期の運営の難しさがありますが、一人ひとりを気にかけて学校運営をしていただいていることが強化方針からもわかります。家庭・福祉支援の必要な生徒も多いことが想定されます。「生徒自身が行政等の支援につながる基礎知識」のご指導を。区も協力します。 (3) 「令和4年度使用教科用図書選定理由書」について→適正に選定していただいている。</p> <p>第2回 大阪府立桃谷高等学校 学校運営協議会（集合開催）令和3年11月24日（水）15:00</p> <p>【協議内容】 (1)各課程による令和3年度学校経営計画進捗状況の報告 (2)令和4年度教科書採択について (質問・意見) ①コロナ禍での相談する場所の必要性、②退学者増加の要因について、③進路未定者の指導について、④1人1台端末の授業での活用について →①SSWなど福祉との連携を深めたい、②要因は複数考えられるが、連絡の取れない生徒の退学も一因だと考えられる。③経済的課題を抱えている生徒があり、奨学金利用を進めている。就職はハローワークにも繋がるよう指導。④校内研究チームを組織したところ。グループウェア等の活用をしたい。</p> <p>第3回 大阪府立桃谷高等学校 学校運営協議会（書面開催）令和4年2月28日（月）聴取日</p> <p>【協議内容】 (1)令和3年度経営計画及び学校評価（案）について (2)令和4年度経営計画及び学校</p>	
		生徒			保護者			教員			
	R03	R02	R01	R03	R02	R01	R03	R02	R01		
学校への意識	52.3	59.8	53.1	72.2	56.7	62.0	97.4	90.9	86.7		
	87.5	89.0	88.9	88.9	98.5	93.7	86.8	97.7	95.6		
学習指導	89.7	87.7	77.5	72.2	74.6	72.7	100.0	95.5	100.0		
生徒指導	88.7	85.8	82.2	88.9	88.1	87.2	89.5	86.4	82.2		
教育相談	67.1	61.6	72.2	77.8	83.6	82.3	94.8	90.9	86.7		
進路指導	82.9	77.2	84.2	77.8	86.6	83.3	86.8	86.4	86.7		
道徳教育	87.5	79.0	85.0	94.4	83.6	91.0	71.1	77.3	68.9		
人権教育	87.5	83.1	85.4	94.5	92.5	87.2	73.6	86.4	75.6		
情報提供				83.3	92.5	83.5					
<p>本年度はアンケートをすべてフォーム作成ツールで実施。（生徒）全21項目中肯定率80%以上が7割を超えているが、項目1の「学校へ行くのが楽しい」が7.5ポイント低下。新型コロナウイルスへの不安、学校生活の制約、在籍生徒数減等の要因が考えられる。学習指導は90%近い生徒が肯定的であり授業への工夫が評価されている。「自分の意見をまとめたり発表する」が+16.6%とICTの活用授業の取組みが大きく向上。（保護者）オンライン回答で回答率が例年の半分となった。肯定率80%以上の項目が3項目減少。進路指導面、学校からの情報提供で数値の低下がみられる。「子どもが学校へ行くのがたのしい」が+15.5増と生徒回答と相反する項目も精査が必要である。（教員）学習指導に関する項目についてすべての教員が肯定的に回答。今後もさらなる研鑽につなげたい。項目2「生徒保護者のニーズに合った特色」が10ポイント以上の低下。閉部に関わっての課題解決を引き続き取り組んでいく。人権教育に関してより充実したものとなるよう重点課題として取り組む。</p>											

府立桃谷高等学校 (C S I II部)

	<p>評価(案)について →全委員より承認 (意見)・学習指導についての肯定的な評価 90%、進路未定者の実数(割合)が大きく減少。素晴らしい成果が出ている。「学校へ行くのが楽しい」(生徒)が7.5%減少が気になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果から対話的な学習が深められていると感じる。 閉部は大変寂しいことだが、在学している生徒が全員卒業できるよう願っている。 保護者とのコミュニケーションを取られており、コロナにもかかわらずご努力に感服する。生徒の授業評価が8割を超え高率を示し、進路説明会評価も94.6%と高く、学びのシステムが機能していると思う。 閉部を控え生徒数が減少するが、生徒会、各部活動に充実した指導をお願いする。 (閉部により)生徒および教職員のモチベーションをどう上げていくか問われると思う。「チーム学校」で乗り越えていただきたい。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 2 年 半 後 の 閉 校 を 見 据 え、 生 徒 ・ 保 護 者 ・ 地 域 等 の 思 い に 応 え る べ く 教 育 活 動 の 一 層 充 実	<p>(1)保護者等との連携や本校の在り方、閉課程までの課題の検討</p> <p>(2)本校への理解を促進する広報活動の充実</p> <p>(3)学校力向上のための職員研修の充実</p> <p>(4)「働き方改革」に係る意識改革と業務の効率化</p> <p>(5)地域連携の一層の推進</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談や家庭連絡を通じて、生徒の状況を正確に把握するとともに、単位修得へと結びつくように指導を行う。 また、HP、メールマガジンの内容を充実させ、必要な情報の提供により登校を促す。 将来構想チームを中心として令和5年9月末の閉部までの生徒のニーズに応えられる本校の在り方、方向性を検討 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者に、本校の学校情報を正確に伝えるため、HP更新回数 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員力を向上させるための研修の実施 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「働き方改革」に係る意識改革のための情報提供を行うとともに、安全衛生委員会を通じた安全安心の職場環境づくりと業務の効率化を図る。 <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域等と連携した授業や「総合的な探究の時間」等を推進する。 地域と連携した防災への取組みを推進し、危機管理に対して生徒の安全を最優先した計画を立てる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談の実施率、家庭訪問件数(前年比を維持) [前期 55.3%、後期 29.8%、家庭訪問 84件] 学校教育自己診断「学校のHPやメルマガを利用している」70%以上 [83.6%] 学校教育自己診断「生徒のニーズ」肯定率90%以上 [89.0%] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> HP更新回数 60回以上 [88回] <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権及び支援教育に係る研修の肯定率80%以上 [88.6%] <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ストレスチェックの「総合的健康リスク」の低減 [数値 85] <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域等と連携した参加体験型学習の実施回数20回以上 [12回] 地域と連携した防災研修の実施 [1回、肯定率 93.2%] 学校教育自己診断「災害時の行動について具体的に知らされている」生徒肯定率70%以上 [74.9%] 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談(前期 45% (-10.3)、後期 43.1% (+13.3))、家庭訪問(30件)を実施した。[○] →生徒数は-50%減昨年同様コロナ禍の中電話による懇談も実施。閉部までに単位修得等について後期の懇談も積極的に行った。 学校教育自己診断(生徒用)「学校のHPやメルマガを利用している」(76.2%) [○] 「生徒のニーズ」肯定率(87.5%) [△] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> HPの更新(73回) [○] <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権研修(2回)、支援研修(1回)実施肯定率(100%) [◎] <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ストレスチェックの総合的健康リスクは78(-7)、(R2:85, R1:91)で改善(100が基準)。[◎] <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域等と連携した参加体験型学習(延べ17回)、福祉科・総合探究等の授業で外部講師等の活用。コロナ禍で制限あり [○] 防災研修肯定率(93.2%) ±0。防犯研修を校内動画視聴で実施。[○] 学校教育自己診断「災害時の行動について具体的に知らされている」(81.8%) [◎]

府立桃谷高等学校 (C S I II部)

<p>2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」及び進路指導体制の充実</p>	<p>(1)「学びのシステム」の構築 ア キャリア発達を促す「学びのシステム」の構築 イ 実社会に触れる学びの実践</p> <p>(2)授業力の向上 ウ 「確かな学力」を育成するための授業研究の実施 エ 「確かな学力」を育成する授業の研究</p>	<p>(1) ア・桃谷高校キャリア教育「ももだにプロジェクト」での各教科・分掌等の具体的取組みの設定。 ・進路実現に向け意欲を高める「キャリア・ガイダンス(進路担当者面談)」及び「キャリア・カウンセリング(担任面談)」の充実 イ・進路説明会において実社会に触れる学びが実現できるよう内容の充実を図る。</p> <p>(2) ウ・「わかる授業」をテーマに生徒が主体的に取り組む授業をめざした授業研究の実施。 ・授業見学週間を年2回実施(6月, 11月) エ・教科毎に、授業での「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマとした指導方法を研究。授業評価の結果を受け、各教科の授業において工夫した取り組み内容について成果報告など情報共有する。 ・授業で考えをまとめたり、発表させる機会を設ける。</p>	<p>(1) ア・各教科・分掌等において育成したい能力および具体的取組等の作成 ・進路未定率の減少20%以下 [11.0%] ・学校教育自己診断(生徒用)「進路について考える機会がある」80%以上 [81.3%] イ・進路説明会の生徒評価肯定率90%以上 [94.6%]</p> <p>(2) ウ・前後期各1回で研究授業と研究協議の実施 ・見学回数1人当たり各2回以上 エ・学校教育自己診断(生徒用)「教え方に様々な工夫をしている」80%以上 [87.7%] ・各教科の取り組み内容の成果報告会を行う ・学校教育自己診断(生徒用)「授業で考えをまとめたり、発表する機会がある」50%以上 [42.5%]</p>	<p>(1) ・「キャリア教育全体計画」の作成(4月) ・進学40名,就職12名,その他8名,未定者4名(6.2%) [◎] ←進路希望者64名が母数 ・学校教育自己診断(生徒用)「進路について考える機会がある」(81.8%)+0.5 [◎] ・進路説明会実施回数(2回)、参加延べ人数(165名)、参加者肯定率(94.6%) ±0 [◎] (第1回中止、第2回97.7%(106名)、第3回91.5%(59名)) (2) ・前後期各2回、10年目経験者1回 [◎] ・授業見学前期43回、後期70回 [◎] ・学校教育自己診断(生徒用)「視聴覚機器やコンピュータの活用」(82.9%)(+7.6) [◎] ・学校教育自己診断(生徒用)「教え方に様々な工夫をしている」(89.7%)(+2.0) [◎] ・前期授業アンケート結果を各教科で分析し課題を共有した。 ・学校教育自己診断(生徒用)「授業で考えをまとめたり発表する機会がある」(59.1%)(+16.6) 1人1台端末の導入で自分の意見や考えを表出・共有がしやすくなった。 [◎]</p>
<p>3 生徒の自尊心を育み社会性の向上を図る取組み及び人権教育の一層の充実</p>	<p>(1)総合学習や特別活動等を活用した人権教育の充実と「生きる力」育成の取組み</p> <p>(2)(3) 支援教育・規律指導・教育相談の三位一体による教育活動の展開</p> <p>(4)社会性育成のための取組み ア 達成感の得られる自主活動や学校行事の充実 イ 居場所作りと安全・安心の向上</p>	<p>(1) ・人権学習プログラムを「ももだにプロジェクト」の中に位置づけ、参加体験型も含めて系統的に実施。</p> <p>(2)(3) ・支援検討の専門家及び関係機関の協力を得た支援検討会議の実施。 ・教育相談に関して、学校独自で臨床心理士をSCとして招聘。教員組織も、教育相談担当を支援検討担当と別に設け充実を図る。 ・今年度配置のSSWや関係機関(行政・福祉・司法)等と連携した支援の実施。 ・授業を大切にすることを念頭におき、支援とカウンセリングの観点を持った毅然とした規律指導を行う。</p> <p>(4) ア・閉部を控え生徒数減の中でも生徒会・部活動など自主活動の工夫と充実を図る ・魅力ある行事への工夫・改善 イ・地域人材の協力を得て図書館の整備を行い、図書館を居場所としての充実を図る。</p>	<p>(1) ・人権学習実施後の生徒評価 肯定率90%以上 [96.9%]</p> <p>(2)(3) ・支援検討会議の実施回数(必要回数) [2回] ・関係機関を交えたケース会議等の実施回数(必要回数) [14回] ・指導に対する生徒の納得度 肯定率80%以上 [85.8%]</p> <p>(4) ア・生徒会活動・部活動参加者の満足度70%以上 [部活動64.8%] ・行事参加者数の満足度 肯定率80%以上を維持 [校外学習94%、文化祭90%体育祭なし] イ・図書館整備の実施 [26回] ・図書室利用者 年間2500名以上維持 [2747名]</p>	<p>(1) ・人権学習実施後の生徒肯定率(95.0%) 6/2 難民問題、12/1 部落差別問題 [◎] (学校教育自己診断(生徒用)「命の大切さ」「人権の大切さを学ぶ」各87.5%、87.5%)</p> <p>(2)(3) ・支援検討会議の実施回数(2回) ・ケース会議等の実施回数(11回) ・教育相談・支援教育に関する研修実施回数(1回) [◎] ・学校教育自己診断(生徒用)「学校生活について先生の指導には納得できる」(88.7%)(+2.9) [◎]</p> <p>(4) ・学校教育自己診断(生徒用)「学校は部活動にも参加しやすいよう工夫している」(55.7%)(-9.1) [△] 「文化祭や体育祭など学校行事は楽しく行えるよう工夫されている」79.6%(+3.8) [○] ・10/14 校外学習(参加者;78名、満足度;92%)、11/4 文化祭(参加者;88名、満足度;94%)、体育祭は中止→12/22 球技大会(参加者;45名 見学者含む) [◎] ・図書館整備回数(26回) [○] ・図書室利用者(年間2323名)1月末 [△]</p>